

2018年 1月15日(月)

9:30~11:30
講師:野口 和彦



■タイトル: 現場安全と経営安全をつなぐマネジメント技術

■講義概要

企業の安全活動の向上には、経営と現場のそれぞれが自分の役割を果たしていくことが必要である。しかし、企業において、経営と現場の役割分担が明確になっているとは言えない状況も散見される。さらには安全に関する課題を如何に共有するかということも、その仕組みが明らかになっているとは言い難い状況にある。本講座では、企業の安全活動における経営と現場の役割を整理し、さらに両者の連携による企業安全に関する総合力を高める為のマネジメントのあり方を示す。

■所属: 横浜国立大学 リスク共生社会創造センター センター長、大学院 環境情報研究院 教授

■講師紹介プロフィール

◇学 歴 1978年3月東京大学工学部 航空学科 卒業

2009年9月横浜国立大学 工学博士号 取得

◇職 歴 1978年 株式会社 三菱総合研究所 入社

1996年 株式会社 三菱総合研究所 総合安全研究センター主席研究員

株式会社 三菱総合研究所 政策工学研究部 部長

2006年 株式会社 三菱総合研究所 研究理事

2014年 横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授

2016年 横浜国立大学 リスク共生社会創造センター センター長、大学院環境情報研究院 教授

◎専門分野: リスクマネジメント(安全工学、人間工学、危機管理)、科学技術政策

主なプロジェクト: リスクマネジメントに関する研究、危機管理に関する研究、科学技術と社会の共生に関する研究

◎委員会 ・ISO31000 日本代表委員 ・内閣官房、内閣府、文部科学省、環境省等 各検討会 委員

12:30~14:30
講師:半田 安



■タイトル: 化学プラントの安全管理と教育訓練

■講義概要

化学産業を取り巻く環境は、高度化、省人化、多能化など人にきびしい環境へと変化してきている。さらに、2007年度問題と呼ばれる、経験豊富な「団塊の世代」の技術者や運転員が大量に企業から去りつつある。運転のみならず、建設や改造工事などの数多の経験を積み、豊富なノウハウを有する人たちだ。再雇用という形で、5年間の定年延長が行われていたものの2012年頃からは本格的に会社を去っている。今後、化学会社では若い人材の育成が大きな課題になってくる。事故や災害を経験したことの無い若い世代に、限られた時間の中で過去の事故からの教訓を効率良く伝承することが求められている。今回の講座では、化学プラントに潜んでいる危険源は何か、管理のポイントと人材育成での問題点や化学プラントの運転員を効果的に育てていくには、何を考えどうしていくべきかを紹介する。

■所属: 元三井化学株式会社 技術研修センター長

■講師紹介プロフィール

1973年 横浜国立大学工学部電気化学科卒業。三井石油化学工業(現在名:三井化学)に入社

石油化学プラントの設計、保全、建設、調達、技術管理、安全管理に従事

2006年5月より、三井化学 技術研修センターを設立し、技術研修センター長就任

2012年 三井化学株式会社 生産技術本部 海外技術部 主席部員

2015年1月 三井化学株式会社退職

現在、「化学プラントでなぜ事故は起こるのか」、「化学プラントでの安全管理の切り口」や「人材育成や技術伝承」をテーマに山陽人材育成講座及び京葉コンビナート人材育成講座で講師や企業向け安全講演講師として活躍中。日本化学工業協会 RC 検証センター 検証員として各種企業の検証業務を担当。自己紹介、得意分野や講演執筆実績については、ホームページ参照 ◎半田のホームページ: <http://www.geocities.jp/handanha/>

14:45~16:45
講師:東瀬 朗



■タイトル: 安全文化とヒューマンファクター

■講義概要

重大災害を防止するためには、技術的な側面のみではなく、安全文化及びヒューマンファクターなど人間的な側面に関する対応も重要である。特に化学プラントにおいては、特性上他の産業と比較して組織を挙げて事故防止に取り組むことが強く要求されるため、本講座では、安全文化及びヒューマンファクターに関する組織上の課題について述べるとともに、事故防止の方策について講師が行ってきた安全文化調査の事例を交え紹介する。

■所属: 新潟大学 大学院技術経営研究科 特任准教授 兼 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 講師(非常勤)、安全工学会 保安力向上センター 研究員

■講師紹介プロフィール

民間企業で内部統制コンサルティング等を担当後、2008年に開設された慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科にて修士号(システムエンジニアリング学)及び博士号(システムデザイン・マネジメント学)を取得。2010年以降、大学及び内閣府経済社会総合研究所、安全工学会保安力向上センターなどにおいて多くの事業所調査を行い、安全文化及び組織文化の診断と改善に関する研究と実践を行っている。慶應義塾大学大学院助教(有期・研究奨励)(2011年10月~)、新潟大学大学院非常勤講師(2012年4月~)、安全工学会保安力向上センター評価委員兼研究員(2013年4月~)、内閣府経済社会総合研究所客員研究員(2013年5月~)、慶應義塾大学大学院特任助教(2015年4月~)などを経て、2016年4月より現職

9:30～11:30
講師:中村 昌允



■タイトル: 岐路にきた日本の安全管理

■講義概要

日本の製造現場は、二山構造の年齢分布をしていたが、熟練技能者が職場から去り、若年層主体で設備を動かす時代に移行している。また、設備の新增設が減り、自動化が進捗しトラブルも減少した結果、OJT で技術・技能を身に着ける機会が格段に少なくなった。一方では、コモディティからスペシャリティへの移行が進んでいる。最近の重大事故で問われた安全管理上の課題も踏まえて、これから10年先の安全管理について考えてみたい。

■所属: 東京工業大学 環境・社会理工学院

イノベーション科学系・技術経営専門職学位課程 特任教授

■講師紹介—プロフィール

1968年3月 東京大学工学部工業化学科卒業

1968年4月 ライオン油脂株式会社(現ライオン株式会社)入社

1988年6月 研究開発本部プロセス研究室長

1992年4月 研究開発本部素材開発センター所長

1998年4月 ライオンオレオケミカル株式会社取締役

2001年4月 ライオンエンジニアリング株式会社取締役

2005年4月 東京農工大学大学院技術経営研究科(現 工学府産業技術専攻)教授

2008年4月 東京工業大学 イノベーションマネジメント研究科客員教授を兼務

2014年3月 東京農工大学退職

2015年11月 内閣府遺棄化学兵器処理担当室事業参与を兼務

2016年4月 東京工業大学 大学院環境・社会理工学院 特任教授

◎主な資格 博士(工学)、技術士(化学部門)、労働安全コンサルタント(化学部門)

12:30～14:30
講師:向殿 政男



■タイトル: 安全マネジメントの体系と要点

■講義概要

安全な製品を造り(製品安全)、安全に製品を作ること(労働安全)は、顧客と従業員の身の安全を守ることであり、企業活動にとって最も大事にすべき目的の一つである。企業のトップは、安全を品質や利潤よりも勝る第一の価値観として取り組まなければならない。そのために、リスクアセスメントをどのように行い、安全のためのマネジメントをどのように構築して運用するかを、安全を総合的に取り組むことを目指す安全学の立場から、統一的に、体系的に解説する。

■所属: 明治大学名誉教授、明治大学顧問、明治大学校友会長、

(公社)私立大学情報教育協会会長、日本学術会議連携会員、

(一社)セーフティグローバル推進機構 会長

■講師紹介—プロフィール

1965年明治大学工学部卒

1970年明治大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程修了、工学博士

1970年明治大学工学部電気工学科専任講師

1978年電子通信工学科教授

1989年同大学理工学部情報科学科教授

2013年同名誉教授。現在に至る

その間、情報科学センター所長、理工学部長等を歴任

◎専門: 安全学(製品安全、機械安全、労働安全)、情報学(人工知能、ファジィ理論、情報教育)、論理学(多値論理、ファジィ論理)

◎学外活動: 国際ファジィシステム学会副会長、日本ファジィ学会会長、日本信頼性学会会長、国土交通省 昇降機等事故調査部会 部会長、経済産業省 製品安全部会 部会長 消費者庁 参与

◎賞罰: 電子情報通信学会フェロー、日本知能情報ファジィ学会フェロー、国際ファジィシステム学会(ISFA)フェロー、経済産業大臣表彰(工業 標準化功労者)、厚生労働大臣表彰(功労賞者)、内閣総理大臣表彰(安全功労者)

◎著書: 「入門 テキスト 安全学」、「よく分かるリスクアセスメント—事故未然防止の技術—」等多数

14:45～16:45
司会:野口 和彦
(横浜国立大学)

■パネルディスカッション

テーマ 1 何故事故を防ぐことができないのか?

テーマ 2 セミナーにおける疑問点に関する議論